

基本的な問いの構成 (What Why How)

各フェーズに、次の疑問詞を位置づけて問いを構成する。

- (1) What 何か 事実の認識
- (2) Why なぜ 理由や原因の論理的推測
- (3) How どのように 提案や行動の方法

(1) 事実の認識については、次の3種類の内容が考えられる。

- ①内容そのものの理解
主に働きや機能について宣言的知識を学ぶ。
- ②事実が生じたきっかけや必然性(必要性)や成立に至った経緯などを学ぶ。
- ③事実の余事象や他の起こりえた事柄などについて 拡張的に学ぶ。

(2) 理由や原因については、次の2種類の内容が考えられる。

- ①その事実が生じた理由や原因そのものを対象として学ぶ。
- ②生じた事実の理由や原因を、原因と結果の結びつき(因果関係)としてとらえ、論理的な推測ができるように発展的に学ぶ。

(3) 提案や行動については、次の2種類の内容が考えられる。

- ①実行可能な解決方法を考えること。実践性や実効性に重点を置き、それを行動につなげること。
- ②新たな解釈や仕組みなどを創り出すこと。創造性に重点を置き、価値を生み出すこと。

(1)~(3)の過程で、事実や事柄について、必要性の他に、その「重要性」を理解するために、他との関連性を考えたり、余事象を考えて輪郭を明確にしたりする。

(1)で、What の対象として、事実や事柄ではなく、それらを支える「背景」や「構造」を問うこともでき、認知レベルが高いものになる。

(1)~(3)のすべては、意味や意義についてだけ総括的・啓発的な解釈としてまとめることができる。内容だけでなく、メタ認知的な要素も取り入れることができる。

